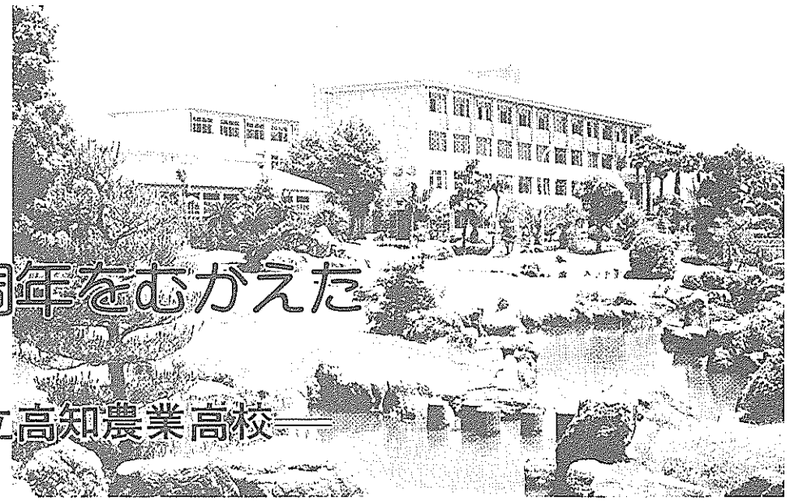
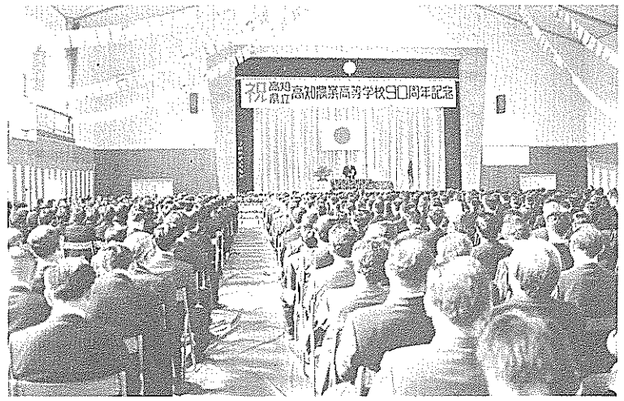


創立90周年をむかえた

―県立高知農業高校―



創立九十周年記念式典は、十一月二十二日午後一時半から同校体育館で全校生徒七百人と同窓生やPTAなど二百人が集り盛大に行われました。

まず、同窓生物故者にもくとうをささげた後、藤田三郎記念行事実行委員会会長（全国農協中央会長＝大正七年、二十八回卒業生）、楠瀬秀雄校長（昭和十六年、五十回卒業生）から、それぞれ『明治二十三年高知市北門筋に設置され、卒業者数一万四千名を輩出してきた。この伝統は脈々として生き続け、本校は今や全国有数の学園として新しく飛躍する時を迎えた』『本校の歴史は、国、県農業の歴史で、卒業生は産業、文化に大きな役割を占めている。五十四年度から四年間で改築工事を進めているが、完成すれば威容を誇る農業教育の殿堂となろう。本校には恵まれた環境と歴史がある。これを生かして、立派な内容の農業教育を行っていきたい』と式辞。

続いて、三代卒業者（六家族）の表彰、中内知事や小笠原市長ら来賓の祝辞、校歌斉唱で式典を終えました。

二十三、二十四日には記念学園祭が行われ、日ごろは入ることの少ない学校を開放、ぜいたくとも思える広大な校庭には、農業高校らしく、子牛、山羊、豚、うさぎ、七面鳥の放し飼い。地鶏などの品評会、ひよこの無料配付、みかん、花、野菜、しいたけ（原木も）の即売、バーベキュー広場、お茶席、各資料の展示など特色のある催しもので、人気も上々。終日家族連れでにぎわっていました。

激変する農業とともに歩み続ける「農業高校」――本市の誇り高き学校を、もっと身近な学校として意識する必要があるように思われます。

―沿　革―

明治23.3.26　高知県農業学校と称し高知市北門筋に設置
〃 23.9.9　授業開始。修業年限2年、生徒定員100名
〃 32.2.28　高知県農学校に改称
大正3.4.6　土佐郡小高坂村旧県立第二中学校に移転
〃 10.3.31　高知県立農林学校に改称。本科を農業科、林業課、養蚕科にわける
〃 12.3.21　現在地、東崎に移転
昭和18.4.1　農業土木科を設置
〃 19.4.1　女子部設置
〃 22.4.1　併設中学設置（6・3制実施）
〃 23.4.1　新制度により高知県立農業高等学校と改称
〃 23.6.15　本山分校、南海分校（稲生）設置
〃 25.4.1　畜産科を設置
〃 37.4.1　農芸化学科設置
〃 40.3.31　運動場を下野田（現在地）に新設
〃 49.4.1　農芸化学科を食品化学科に改称
〃 50.3.31　南海分校閉校
〃 51.11.14　第36回卒業生、和田久義氏（浜改田出身）からの1,000万円の寄付金で「和田文庫」が設置される
〃 53.3.31　寄宿舎（グランド北側、72名収容）完成

学校の特色

高知農業高校は、明治二十五年に第一回卒業生（二十一名）を送り出して以来、約一万四千名の先輩を生んでいます。

当時の入学資格は「田んぼ七反以上を所有するものの子弟で、入学試験に及第したもの」ときびしいものでした。（定員は百名、修業年限二カ年）

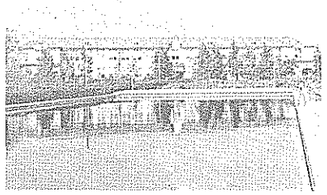
校訓：誠実、勤労、剛健、協調…の精神はひきつがれて、今の坊主頭と編み上げズック靴に、また式典の際のすばやい一斉起立などに生きています。当校は農業学校として全国で四番目に古く、県内でも小津、追手前に次ぐ歴史を誇っています。

少し変った制度として、大正六年から実施された「特待制」で、一年生の一学期の成績が優秀なら、二学期から二年に上ることが出来るというものでした。

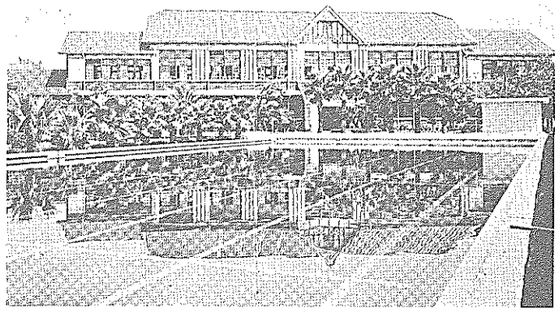
行事も実業校らしく、「練歩会」というきびしいものがありました。

これは、十二時間以内に徒歩で安芸へ行って帰る行事で、帰るとふとんもしけないほど足腰が痛かったそうです。それから、前浜へ袋をもって歩いて行き、砂を入れて持ち帰り、学校の砂場へ入れるという一挙両得の行事もあったようです。これらは、今から思うと少し無茶とも思えないこともありませんが、なつかしい行事です。

小高坂時代
（大正３年～大正12年）



旧校舎（大正12年～昭和20年）



旧本館（昭和15年～昭和51年）

三代卒業者に感謝状

市内では、立田さん、池田さん

学校側は九十周年を記念して、三代にわたって卒業された六組のみなさんに感謝状を贈りました。

本市では、岡豊町小篭の立田正章さん、立田の池田偕（けい）さんご二家が表彰されました。

■親・立田勝美さん（死亡）
大正元年（二十回）卒業
子・立田正章さん
昭和十二年（四十六回）卒業
孫・立田嘉秀さん
昭和四十六年（八十一回）卒業

■親・池田己生男さん（死亡）
大正十一年（三十二回）卒業
子・池田偕さん
昭和二十七年（六十二回）卒業
孫・池田利昭さん
昭和五十四年（八十九回）卒業

そこで、親子で農業をされている立田さんにお話をうかがってみました。

□農業校へ進んだ理由は……。

正章さん……昭和八年二月に父が急死し、先生にすすめられた。十四歳ではこれといった目的もなかったが……。

嘉秀さん……きょうだいのうち男は私一人なので、跡継ぎの必要も考えて入学しました。

□学校時代の楽しいことと苦しいことの思い出は……？

正章さん……㊱当時の先生は県外出身の方が多く、昭和十二年六月に修学旅行で先生方を頼って京都や富山、東京などを巡回したこと。㊲実習が非常にきつかった。試験中でも夜まで実習、その翌日実習から問題が出るなどきびしかった。

嘉秀さん……㊳静岡県への十日間のメロンの研修旅行、㊴領石の果樹園造成（四十四年）で、一日に十本分の穴を掘らなければ帰れないということがあった。ツルハシで掘っていると岩石が多く苦労しました。

立田さん父子

□先生の想い出

正章さん……私の頃の先生は、実際の行動力というか指導力が強かった。例えば、鍬でうねをたてるにも、先生がやれば絵にかいたようなうねができましたね。